

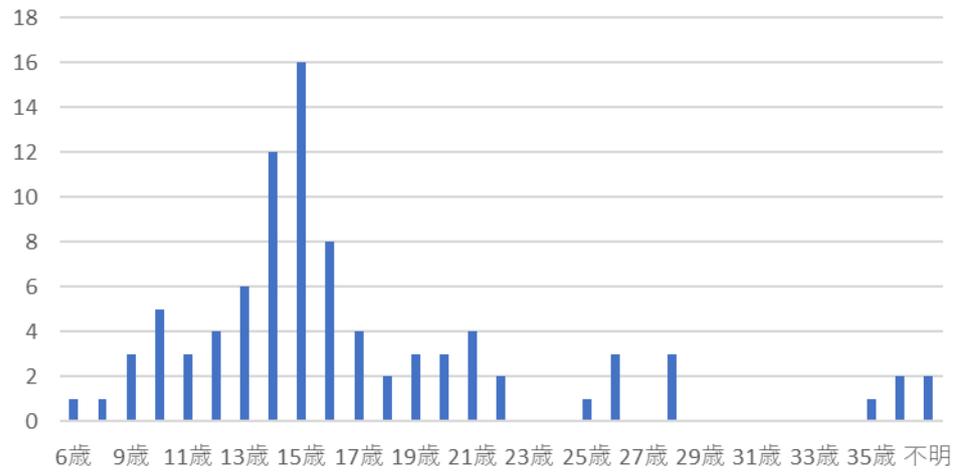
2019 年度 福祉助成金（活動助成）成果報告書 提出用

公益財団法人 橋本財団
理事長 橋本 俊明 様

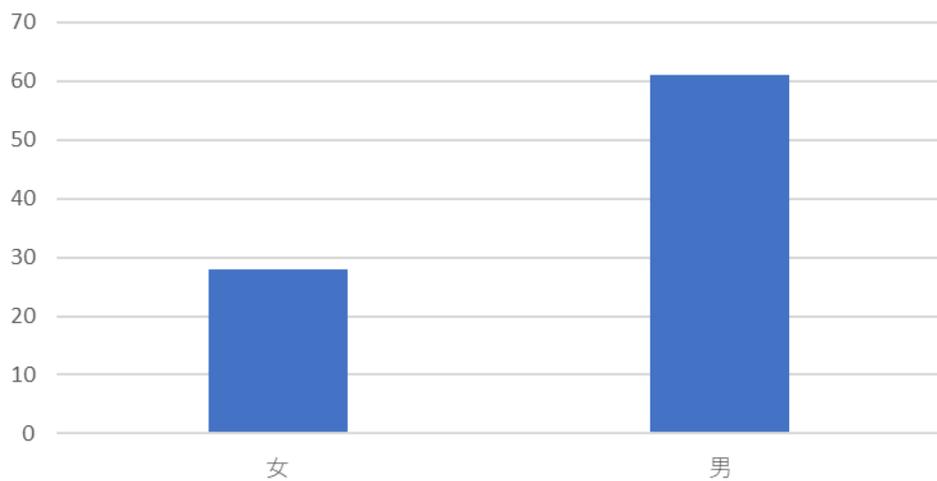
2020 年 5 月 25 日

ふりがな	とくていひえいりかつどうほうじんおかやまこうとうがくいん			
団体名	特定非営利活動法人岡山高等学院			
代表者名	役職名	代表理事	氏名	木村浩輔
連絡先	住所	岡山市北区野田屋町二丁目 10 番 5 号		
	TEL	086-221-3350		
	E-mail	o.h.gakuin@gmail.com		
	URL	http://o-h-gakuin.info/		
設立年（西暦）	2017 年			
主な活動	<p>発達障害者や、不登校、高校中退経験者を主な対象として、広域通信制高校の卒業支援や進路指導を行う。</p> <p>事業内容 ①学習支援事業②体験活動事業③教育相談事業④社会自立支援事業⑤就労、就職支援事業⑥その他啓発活動</p>			
活動の対象者	発達障害者や不登校、高校中退経験者等を含む進路選択や学習環境に困難を抱える当事者またはその保護者や家族			
助成活動名	進路選択や学習環境に困難を抱える当事者を対象にした相談事業から、支援の入り口までの仕組みづくり (発達障害者や、不登校、高校中退経験者等を対象として)			
助成額	1,591,000 円			
実施内容	目的	当事者が困難を強く感じる要因の一つに「孤立感」が挙げられる。自分たちだけが悩み、苦しんでいるように思ってしまったら、義務教育終了後、どの機関が自分を助けてくれるのか見当もつかないままでは、心理的負担が大きくなる。そこで、定期的にまた必要に応じ、無料の相談会を開催する。当事者が次にできることを見つけるために情報の提供や橋渡しなどを行い、その相談会の存在を広め、新たな人が相談に来やすい環境をつくり、孤立感を払拭することが必要である。相談事業を持続可能なものにするための仕組みと、人材を確保、育成していくための仕組みづくりをしていくことが必要である。		
	内容	「人の悩みや課題、そして思いや願いは百人百色」という思いで、実際に支援に携わる NPO 法人のスタッフが、不登校、ひきこもり、発達障害等で、生活や進路に悩みを抱えている本人やその家族を対象に、面談を通して、一緒に解決のヒントを見つける活動を行う。個別相談会を月 6 回程度開催。当事者の講話を聞くことのできる、特別相談会を年 4 回開催。2019 年度は、岡山県内の 5 団体から相談スタッフが相談会に参加。当事者 6 名、保護者 1 名が、各特別相談会で、自分の体験を話す講話をおこなった。百色通信を発行し、相談会の情報を発信。		
	成果	<p>相談者数が 87 名、のべ相談回数は 112 回であった。昨年度からの継続相談者が 7 名。今年度の継続相談者が 16 名。継続相談の割合が、増える傾向がうかがえる。被相談者が相談経過や結果に好感を抱いていなければ、別の相談機関を頼らざるをえないことになるので一定の評価を得ていると考えている。そして、場所も住まいから近い所を選べたり、休日に開催したりしていることも要因のひとつと考えられる。また、長期に渡って相談を要する事例も増える傾向にある。</p> <p>百色相談会を始めるまでは、口コミによる相談が大半であったが、チラシやインターネットを見ての相談申込が増え、2 年間の取り組みの成果として、相談会が浸透してきていると言える状況になってきた。</p>		

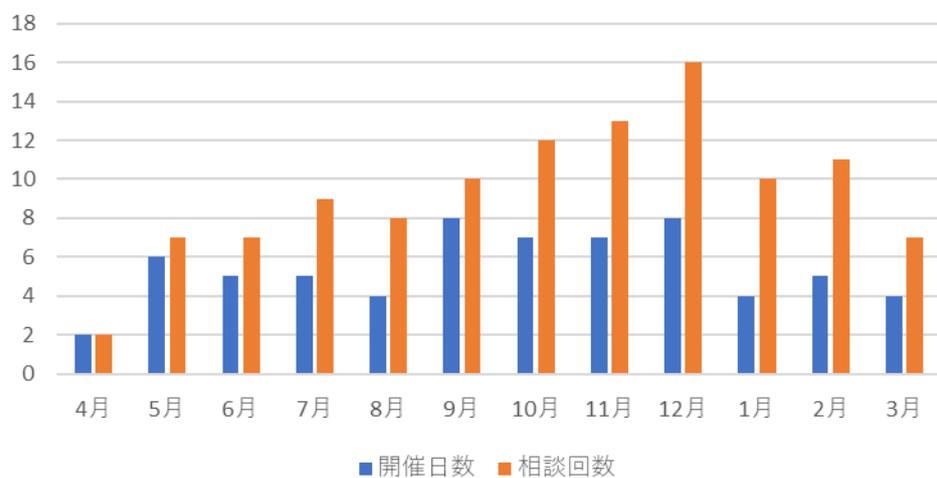
年齢別人数

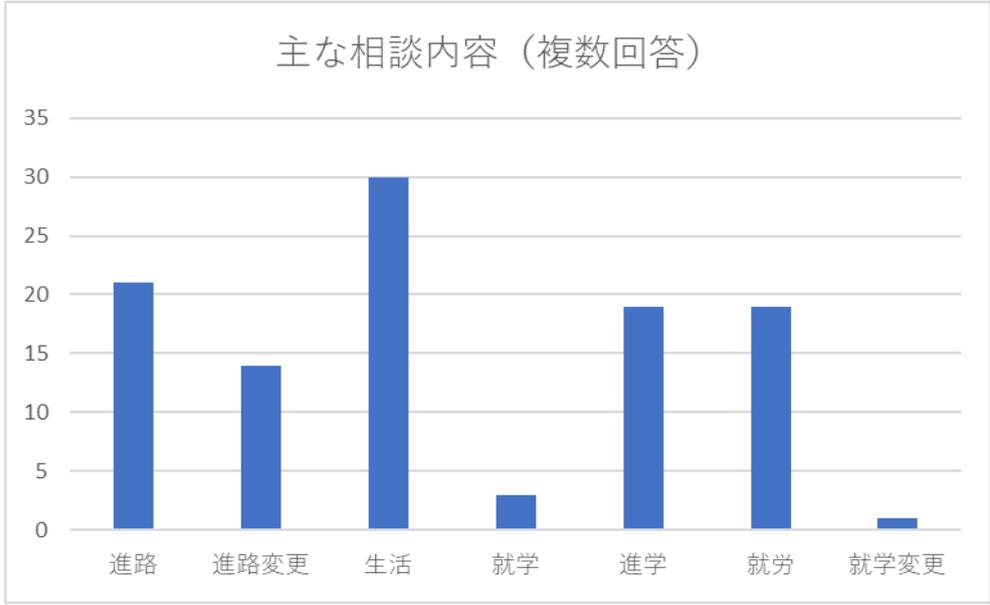


データの個数 / 性



月別開催日数・相談回数



	<p style="text-align: center;">主な相談内容（複数回答）</p>  <p>「進路」は広くどのような選択肢が考えられるか。「進学」は、具体的に高校や専門学校、大学に関すること、「進路変更」は、今在籍している学校を変わるかどうか。「就学」、「就学変更」は、支援級、支援学校などの入厩、入学や転校に関すること。「就労」は、福祉就労から一般就労までと就労前のトレーニングに関すること。「生活」は、家での過ごし方や子どもへの接し方等。</p>
<p>今後の課題と対応策</p>	<p>岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、倉敷市教育委員会の後援を得て、岡山市内、倉敷市内の市立小中学校へ、相談会の日程を知らせる、百色通信を配布している。その他、県内の支援機関や倉敷市の親の会でも配布。その上で、相談会利用者からは、もっとお知らせが届くようにしてほしいという声があがっている。井原市や玉野市、総社市から、百色の未来相談会の存在を知って、相談にくる人は、普段発行している百色通信が、自分のいる地域でも配布されることを望む声があった。</p> <p>県北西部への配布も検討している。</p> <p>2018年、2019年と、主催特定非営利活動法人岡山高等学院として、百色の未来相談会を開催してきたが、2020年度より百色の未来相談事業実行委員会として、県内のNPO法人から委員を構成し、よりたくさんの考えを運営に取り入れる形態としている。</p>
<p>参加者・利用者の感想など</p>	<p>特別相談会参加者アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中3、中1の子どもたちは二人とも発達しようがいです。私自身が「自分のことは自分でしなさい。」と言われ、放任の環境の中で育ったので、一つひとつを教えてあげないといけない毎日がともしんどいです。毎日のように「これで良かったのかな。」と思いながら子どもたちと過ごしています。(二人とも不登校) 今日のお話、とても感動しました。私も子どももお互いに歩み寄り、いろいろなことを教えていただきながら輝けるようにがんばろうと思います。 ・ 発達障害(ASD)の中2の息子が不登校になり、これからどうなるのか不安な毎日を送っていました。本日の相談や講演で、息子も息子なりに色々なことに困っていてつらいんだと、そして、ゆっくりではあるけど、せいちょうしていつてくれると確信しました。
<p>写真の提出</p>	

